

資料館だより

2025.1.1 No.125 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

「語りつぐのは、わたし」 1階ロビーで「感想コーナー」を始めました

昨年10月より、館が行う啓発活動の影響・効果の継続的な測定、そして、ご参観いただいた方々の「お言葉」、「お声」を館全体で共有することを目的とし、1階ロビーに「感想コーナー」を設置しました。

当館をご見学された感想を付箋にご記入いただき、ボードに貼っていただきます(写真)。お書きいただいたメッセージは、当館職員が受け止めるだけでなく、ぜひ、参観者のみなさまお一人おひとりにもお受け取りいただきたい。そして、ハンセン病患者・回復者の名誉回復、正しい知識を普及・啓発することによる偏見・差別の解消などといった国立ハンセン病資料館の使命をみなさまにも「わたしのこと」としてほしい。そんな願いを込めています。



昨年公表の「ハンセン病問題に係る全国的な意識調査報告書」で当館に対し重要な指摘がなされたことを受け、「資料館だより」No.123では当館館長内田博文うちだ ひろふみより、同報告書に示された当館の展示内容等に接された方々の反応を、当館にかかる大きな課題と受け止めたことをご報告させていただきました。

このたびの「感想コーナー」の設置は、これらの課題に対して、職員のみならず参観者をふくめ館全体をあげて取り組んでいきたいと願ってのことでもあります。ご来館の折には、ぜひお立ち寄りいただき、ご感想をお寄せください。当館も、寄せられたお声とともに、すこしずつステップアップの道を歩んでいきたいと考えています。

(前島照代)



出張講座のご案内

当館では、ハンセン病問題の理解を深めていただくため、講師を派遣し、ハンセン病問題に関する講演(対面・オンライン、共に無料)を行っております。この出張講座は学校での人権学習、企業等の人権研修、生涯学習、大学での講義など、これまで約7万人の方々にご利用いただき、ご利用件数も年々増加しております。

昨年10月31日には、藤枝市立朝比奈第一小学校(静岡県)よりお招きいただき、地区公開講座としてご利用いただきました。当日のご感想の一部をご紹介します。



「一人一人に人権があるから、もっと人を大切にしたいです。僕は人権があることを忘れないようにしたいです。」



「誰もが幸せな社会を送れるように、差別やいじめをせずに仲良く生活ができるように、自分はあたたかい言葉を使いたいです。」

最近、ハンセン病問題を通して考える感染症への差別や、他の課題とも重ねた複合差別の視点からのご依頼も増えております。2025年度のお申し込みも開始いたしました。2024年度の空き状況は残り僅かとなりましたので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

みなさまのご依頼をお待ちしております。

(金貴粉)

常設展示解説

国立ハンセン病資料館では、ハンセン病問題をより多くの方々に知っていただくために、学芸員による展示室2の「スポット展示解説」を行っています。展示室2は、国の隔離政策により本人の意思とは関係なく過酷な療養所生活を強いられたハンセン病患者の生活を展示し、ハンセン病患者になされてきた理不尽な人権蹂躪と偏見差別を伝える場です。もしも皆さんが家族や故郷から切り離され、病気であるにもかかわらず危険な作業を行わされたり、監禁されたり、さらに子を持つ権利を奪われ人並みの死さえも否定されたら、いかがでしょう？ この機会に森のなかの資料館にお立ち寄りいただき、二度と同じ過ちが繰り返されないよう、人権が尊重される社会をつくっていくための学びを、共に深めてみませんか？（橋本賢一）



日程 1月5日(日)・1月19日(日)・1月26日(日)・2月2日(日)・2月9日(日)
2月24日(月・祝)・3月9日(日)・3月16日(日)・3月23日(日)・3月29日(土)
*各回とも14時開始、時間は30分程度。 *予約不要。開始前に展示室1の前にご集合ください。

1月18日開催 ミュージアムトーク

「再起する女性像—藤本とし『地面の底がぬけたんです』」

ミュージアムトーク2024特集「ハンセン病療養所の女性たち—1冊の本をめぐる」は、ハンセン病療養所におけるジェンダー、ならびにハンセン病患者・回復者の女性が置かれた複合的な差別のありようを、女性たち自身が書いた本を通じて探る連続講座です。

これまでに、入所者が担った・担わされてきた看護やこどもの養育（第2回）、『らい予防法』違憲国家賠償請求訴訟の運動（第3回）、詩に詠われたルッキズムや生殖の局面（第4回）における女性たちの経験を考察し、参加者からは「抑圧のあらわれ方の多重性、流動性について考えさせられた」、「決して一括りにできない一人一人



『地面の底がぬけたんです』
(1974年、思想の科学社)

の困難、人生があったことを知りました」などの感想が寄せられました。

1月18日(土)の午後2時から午後3時に開催される第5回講座「再起する女性像—藤本とし『地面の底がぬけたんです』」は、失明をし、手足に重い障がいがあった女性が綴った克明な生活記録を読み解きます。講師は吉國元よしくにもと（当館学芸員）です。

藤本とし（1901-1987）は19歳で発症、民間の病院に入院（のちに通院）、身延深敬園みのぶじんきょうへの入園の後、大阪の外島保養院そとじま ほよういん（1934年の第一室戸台風の被災により、1938年に岡山県の邑久光明園おくこうみょうえんとして再建）に収容されました。『地面の底がぬけたんです』（1974年、思想の科学社）は、ハンセン病療養所の園内誌などに掲載された藤本の随筆38篇と藤本への聞き書きを収録した書籍で、著者が70代前半の時に出版されたものです。

本書の見どころは、藤本が自身に知らされたハンセン病発症の衝撃を、「地面の底が抜けた」と表現し、さらに、それに続く失明の経験を「この病者は、生きているうちに二度死ぬ」と語るなど、自己の姿を鮮やかな描写と内省をもって語っている点です。絶望からの再起については、春先に園内で外出したときのことを「朝風に佇たちどまって葉ずれから発つ新鮮な香をあびていると、萎えていた私のところが再起のみぶるいはじめののだ」と綴ることで、失明により桜の花は見えなくなったものの、残された嗅覚や聴覚などで春の到来を知覚し、それによって自身の生が鼓舞された様を表現しました。

本講座では、このような藤本の心の動きをたどりながら、「書くこと」を通じて、藤本がどのように隔離下の療養所を生きのびたかについても考察します。

当館の映像ホールで開催し、定員は130名（申込先着順）です。また、手話通訳もご用意しています。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。（吉國元）

詳細・
お申し込みは
こちら



講師：吉國元
(当館学芸員)



2025年3月20日(木・祝)～4月13日(日) 開催 ギャラリー展「桜を植えた人びと(仮)」 場所：1Fギャラリー



現在の桜並木 1955年当時
多磨全生園の桜並木は今年70回目の春を迎える

近隣でも有数のお花見スポットとして知られる多磨全生園。その桜の歴史をご存じですか？ 当館に隣接する桜並木は今から70年前、多磨全生園の入所者たちがその手で道を作り、苗木を植え、大切に育ててきたもので、「多くの人がこの場所を訪れ、ここで生きた私たちの想いを受け継いでほしい」という願いが込められています。ギャラリー展では、桜の歴史や緑化活動の取り組みを写真と資料でふり返り、彼らがのこした絵画や陶芸作品、詩を通して桜に込められた想いを紐ときます。

当館には桜並木を見渡す展望テラスがあります。桜の季節、花を愛でながら、その木を植えた人びとに想いをめぐらせてみませんか？ ぜひご来館ください。(占部好子)

管理運営団体からのお知らせ

厚生労働省主催「第24回ハンセン病問題に関するシンポジウム」をクローバープラザ(福岡県春日市)で開催いたします。

当シンポジウムは、ハンセン病に対する正しい理解を深め差別や偏見がなくすべての人が「ともに生きる」より良い社会づくりに貢献することを目的としています。

第1部 「高校生が学び伝える、わたしたちとハンセン病問題」

ハンセン病問題について、回復者やご家族への取材から得たものを、後世に語り継いでいくために、3校11名の高校生が発表します。

参加校：福岡県立育徳館高等学校 鹿児島純心女子高等学校 開智高等学校

第2部 「聞き書きのその後」

第3部 講演 ハンセン病家族訴訟原告団 団長 はやし ちから 林 力

●日時：2025年2月11日(火・祝) 13時～16時 無料

●場所：クローバーホール 福岡県春日市原町3丁目1-7クローバープラザ
参加には事前登録【会場参加/オンライン】(参加費無料)が必要です。



お申し込みはこちら

問合せ先

国立ハンセン病資料館内 ハンセン病シンポジウム事務局
電話：042-396-2909 メール：info@nhdm.jp

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1 休	2 休	3 休	4
5 解	6 休	7	8	9	10	11
12	13	14 休	15	16 休	17	18 ミ
19 解	20 休	21	22	23	24	25
26 解	27 休	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 解	3 休	4	5	6	7	8
9 解	10 休	11 シ	12 休	13 休	14	15
16	17 休	18	19	20	21	22
23	24 解	25 休	26	27	28	

3月

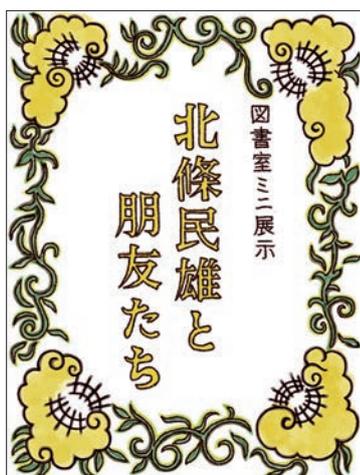
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 休	4	5	6	7	8
9 解	10 休	11	12	13 休	14	15
16 解	17 休	18	19	20	21 休	22
23 解	24 休	25	26	27	28	29 解
30	31 休					

休：休館日 休：図書室休室日 解：常設展示解説 ミ：ミュージアムトーク シ：シンポジウム

：ギャラリー展「桜を植えた人びと(仮)」開催

図書室より

期間：1月31日(金)まで



川端康成に見出され多磨全生園で精力的に小説を書き続けるも、23歳の若さでこの世を去った作家、北條民雄。徳島県阿南市と徳島文学協会ではその文学業績を顕彰するため、命日である12月5日を「民雄忌」と定めています。その「民雄忌」に因み、図書室では昨年12月5日よりミニ展示「北條民雄と朋友たち」を開催しております。

北條が本格的に小説を書き始めたのは1934年に多磨全生園に入所してから2カ月後のことです。ここからわずか3年後の1937年に北條は腸結核で亡くなりますが、小説9編、随筆13編、未完成原稿や作品構想の覚書が16編と、活動期間の短さに対してたくさんの作品を残しています。今回のミニ展示はそんな彼の創作活動の陰で織りなされていた交友関係に着目し、所蔵資料の中から関連図書を集めました。北條が全生園に入所してすぐに話をし、後に彼の評伝『いのちの火影』を書くことになる光岡良二をはじめ、北條が交流を持った人々に関する図書を展示しております。

図書室にお越しの際は、ぜひご覧ください。

(齊藤聖)

団体見学プログラムのご案内

地域の仲間や職場のグループ、各種学校の学年単位等で、国立ハンセン病資料館を見学してみませんか？ 当館では10名以上での見学をご希望される方を対象に、ハンセン病問題について解説したガイダンス映像や、ハンセン病回復者の語り部による講演映像の視聴、学芸員による見学にあたってのガイダンス（見学前ガイダンス）などで構成される団体見学プログラムをご用意しております。当館HPよりお申し込みいただけます。ハンセン病問題について丁寧に知ることができ、効果的に学びを深めることができることをご好評をいただいております。ご見学後、身近な方とさまざまな感想を伝え合える点も、団体見学の魅力です。

(菅原広恵)



団体見学プログラムのひとコマ

国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30~16:30

■入館 無料

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交通
・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分(「ハンセン病資料館」下車)
・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分(「ハンセン病資料館」下車)
・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分



〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>